▲ タービンフロア（2022年11月撮影）

1 東北電力株式会社上越火力発電所1号機の概要

- 所　　在　　地：新潟県上越市八千浦1
- 発 電 出 力：57.2万kW
- 設 計 熱 効 率：63%以上
- 発 電 方 式：ガスコンバインドサイクル発電システム
- 使 用 燃 料：液化天然ガス（LNG気化ガス）
- 営業運転開始：2022年12月1日

2 主な関連工事の施工会社

- 発 電 設 備 基 礎 他 工 事：1 工 区 J V（代表：株 式 会 社 大 林 組）
- 復水器冷却用水路他工事：2 工 区 J V（代表：株 式 会 社 熊 谷 組）
- 発電所本館建屋新築工事：本館建屋JV（代表：大成建設株式会社）
- 煙　突　設　置　工　事：三菱重工機械システム株式会社
- 発　電　設　備　工　事：三菱重工・三菱電機JV

会員各社名

アイサワ工業㈱	オリエンタル白石㈱	大成建設㈱	東洋建設㈱	㈱北都組
青木あすなろ建設㈱	㈱加賀田組	大成ロテック㈱	戸田建設㈱	㈱本間組
あおみ建設㈱	鹿島建設㈱	大日本土木㈱	飛島建設㈱	前田建設工業㈱
㈱安藤・間	㈱熊谷組	大豊建設㈱	㈱NIPPO	㈱丸山工務所
石黒建設㈱	㈱鴻池組	㈱竹中土木	西松建設㈱	三井住友建設㈱
岩田地崎建設㈱	五洋建設㈱	田辺建設㈱	日特建設㈱	みらい建設工業㈱
㈱植木組	佐藤工業㈱	鉄建建設㈱	日本国土開発㈱	名工建設㈱
㈱大林組	清水建設㈱	東亜建設工業㈱	㈱福田組	りんかい日産建設㈱
㈱大本組	㈱錢高組	東急建設㈱	㈱フジタ	若築建設㈱
㈱奥村組	第一建設工業㈱	東鉄工業㈱	㈱不動テトラ	（49社）

73 2023.3

発 行　一般社団法人　日本建設業連合会　北陸支部　広報委員会
〒950−0965　新潟市中央区新光町6番地1（興和ビル7F）TEL（025）285−8886

印 刷　新潟中央印刷

2023.3.25 発行

確かなものを 地球と未来に 日建連

ゆう

特集1―― 対談
北陸の活力ある地域づくりについて

特集2―― リモート市民現場見学会

73 2023.3

一般社団法人　日本建設業連合会　北陸支部

ゆう

2023.3

73 CONTENTS

1 VISION
「男性の育児休業取得推進」

2 随想
「安全・快適で信頼性の高い高速道路を目指して」

3 特集❶
対談
北陸の活力ある地域づくりについて

11 特集❷
リモート市民現場見学会

13 現場で輝くけんせつ小町
「未来の建設業界を築く皆さんを応援しています!」

14 エッセイ
『カメラとの出会い』

15 **ゆうたいむす**
- 「宮ちゃんと私」
- 「食べてみませんか?」
- 「峠の向こうを目指して」
- 「新潟での人との出会いから」

17 私のプライベートタイム
「我が家のメンテナンス係」

18 **事務局だより**

表紙の写真：東北電力株式会社上越火力発電所1号機
空撮写真（2022年10月撮影）

VISION ビジョン

「男性の育児休業取得推進」

清水建設㈱北陸支店
執行役員支店長
中原　俊之
Toshiyuki Nakahara

終わりの見えない新型コロナウィルス感染症の流行とロシアによるウクライナ侵攻、そして急激な円安、物価上昇と私たちを取り巻く環境は厳しさを増しています。

そのような中で我々建設産業は国土の守り手として大きな役割を担うとともに、基幹産業として経済・社会の発展を支えています。

しかしながら建設産業は労働力の減少が年々進行しており、建設業就業者数は1997年のピーク時よりも30%ほど減少しておりますが、その一方で建設投資額は1997年と変わらないくらいまで増加しております。

建設生産物の品質の確保については優秀な技術者や技能者によって実現されており、特に施工にあたっては技術者や技能者が的確に仕事を行うだけでなく、組織的、協調的に機能することが必要とされています。機械化や自動化が日々進歩している現在においても人の手に頼らざるを得ない部分の多い建設業においては人材確保・育成の重要性は高いといえます。

少子高齢化が進み労働力人口が減少するなかで他産業との人材確保競争で優秀な人材を確保し、建設産業で長く働いてもらうためには日建連が推進する「新4K（給与が良い、休暇が取れる、希望が持てる、かっこいい）」の魅力溢れる業界となるようにしていかなくてなりません。

2022年4月に「育児・介護休業法」が男性の育児休業取得推進を目的に改正され、育児休業取得をしやすい雇用環境の整備と育児休業制度の事項の周知と休業取得の意向確認を個別に行うことが義務となりました。

建設業における男性の育児休業取得率は2020年では6.8%と全産業平均の約半分であり、最多取得率の保険金融業に比べると1/5という非常に低い取得率となっています。全産業の中でも極めて低い取得率です。やはりこの数字からは建設業の旧態依然としている部分が垣間見えるのではないでしょうか。

現在建設業はDXやGXなど変革の時を迎えています。この中で未来を担う子供たちのために男性社員の働き方についても同様に変化をとげることが大切です。

男性の育児休業取得を建設業界全体で積極的に取り組むことで、他産業に比べて魅力的な業界とすることが優秀な人材確保・育成の重要なポイントの一つであると思います。

また、日建連は女性の活躍推進による担い手確保に取り組んでおり、男性の育児休業取得の推進をすることで、女性の働きやすい職場環境の実現、女性の出産・育児による離職の防止にもつながるものと思います。

建設業が魅力溢れる業界となるよう会員各社が一丸となって取組を進めていきましょう。

随想 ZUISOU

「安全・快適で信頼性の高い高速道路を目指して」

東日本高速道路株式会社
執行役員新潟支社長
梅木　秀郎
Hideo Umeki

NEXCO東日本新潟支社の事業につきましては、平素より格別のご高配を賜るとともに、多くの方々に高速道路をご利用いただき厚くお礼申し上げます。

新潟県内は昨年8月、記録的な豪雨に見舞われ、特に県北部では河川の氾濫やがけ崩れなどの土砂災害により多くの被害が発生しました。被害にあわれた皆様に対しまして改めて心からお見舞い申し上げます。当社では地域の一日も早い復旧に寄与するため、新潟県からの要請に基づき災害派遣等従事車両やボランティア車両の高速道路通行料金の無料措置を行いました。近年における異常気象は激甚化、頻発化する傾向が見られ、自然災害への対策は喫緊の課題であり、これらの対策を適切に講じ、引き続き交通の安全確保に努めてまいります。また、今冬の降雪を踏まえ、引き続き関係機関と緊密に連携し、「人命を最優先に、幹線道路上での大規模な車両滞留を徹底的に回避する」ことを基本的な考え方として、冬期道路ネットワーク確保のための諸対策を強化してまいります。

本年は、老朽化した高速道路の長期健全性を確保するためのリニューアルプロジェクトとして、関越自動車道の中之島（なかのしま）橋［塩沢石打IC～六日町IC間］や木沢川（きざわがわ）橋［堀之内IC～越後川口IC間］の床版取替工事を皮切りに、秋には当支社管内で4つの床版取替工事を同時に執り行う予定です。

また、建設事業では事業許可を得た約17kmの磐越自動車道四車線化等工事が本格化します。宝珠山（ほうしゅさん）トンネル工事［三川IC～安田IC間］や草水（くそうず）高架橋工事［同］など着実に推進していきます。

これらの大きな工事に限らず、管内では多くの補修工事や交通規制が行われることとなります。お客さまへの工事の影響を最小限に抑えながら、安全を最優先に施工してまいります。

このほか、維持管理の効率化や高度化に向けたSMHプロジェクト（Smart Maintenance Highway）と建設段階のi-Constructionを連携・融合させ、建設から管理まで一気通貫で生産性を向上させる取り組みを進めています。

また当支社では、週休2日推進工事や遠隔立会等の活用、提出書類の簡素化や資料作成の効率化など、「発注における働き方改革」に取り組み、受注者・発注者の相互がより一層働きやすい環境作りに努めています。

その他にも、当支社では、地域活性化及び地域連携を図るため、観光振興・地域交流に取り組んでいます。平成24年に新潟県との間で地域社会の発展を目的とした「包括的連携協定」を締結し、相互に連携した観光振興に係る取り組みを行っています。

高速道路料金の企画割引として、新潟県内全域、長野県北信濃エリア及び福島県会津エリアが乗り降り自由の「新潟・北信濃・会津周遊プラン」と関東方面からの1往復+新潟県内の乗り降りが自由になった「新潟周遊プラン」の2プランの「新潟観光ドライブパス」を販売しています。特に、佐渡の世界遺産登録を微力ながら応援させていただいており、佐渡で利用できる優待特典も設けておりました。その他にも、令和4年9月に行われた佐渡のトライアスロンに協賛しておりました。今後も地域の発展に貢献できるよう励んで参ります。

当社グループは高速道路のプロ集団として、24時間365日、「安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けする」ことを社会的な使命として位置付け、この実現に全力で取り組んでまいりますので、本年も引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特集 1

対談

日本建設業連合会北陸支部長
岡田正彦
Masahiko Okada

北陸地方整備局長
内藤正彦
Masahiko Naito

■開催日／2023年1月18日（水） 13:30～15:00 ■場所／白山会館2階「明浄」

今回は、昨年6月に就任された北陸地方整備局長 内藤正彦氏と日建連北陸支部長 岡田正彦氏による対談です。局長ご就任以来7ヶ月を経てのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保についてお話を伺いました。

対談要旨

①北陸地方整備局長ご就任7ヶ月を振り返って
②2022年度補正予算、2023年度予算について
③北陸の活力ある地域づくりについて
（建設分野のDXの普及・推進）
④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革について（週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進）
⑤建設界の広報活動について
⑥日本建設業連合会等への要望について
⑦災害対応について
⑧終わりに

内藤正彦 氏 略歴

平成元年4月	建設省 採用		
平成23年4月	国土交通省	河川局 治水課 技術調整官	
平成24年7月	同	水管理・国土保全局	河川計画課 河川情報企画室長
平成26年7月	同	同	防災課災害対策室長
平成28年6月	同	同	海岸室長
平成30年6月	同	北陸地方整備局企画部長	
令和2年8月	同	水管理・国土保全局防災課長	
令和3年4月	同	同	河川環境課長
令和4年6月	現職		

①北陸地方整備局長 ご就任7ヶ月を振り返って

（日本建設業連合会北陸支部長）

北陸地方整備局長にご就任されて半年が過ぎたところですが、この間に地域の知事、自治体首長や建設業界の方々から様々なご意見やご要望をお聞きになられていることと思いますが、この間を振り返って頂いて、北陸地域のご印象などをお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

企画部長で2年間お世話になり、2年ぶりに北陸地整に戻ってきましたが、今回改めて赴任してみて北陸の持つ多様な自然環境、豊かな景観、一方で厳しい地形や気象条件、これらが自然条件のいい面と厳しい面の両方持っているというのが北陸地方整備局の特徴だと感じています。北陸地整は日本海に沿って非常に細長い地域を管轄し、メインで担当しているのは新潟県、富山県、石川県ですが、河川、砂防は水系一環での管理を行っており、山形県南部、福島県会津地方、長野県北部、岐阜県の飛騨地方、港湾を加えると福井県までの8県となり、日本海に沿って幅広いエリアを担当させていただいています。太平洋側の首都圏、中京圏、関西圏ともつながっており、太平洋側の人口密集地帯をバックアップする、若しくは相互に補完するという役割を果たしている重要な地域を担当しています。この地域の県境部はいずれも厳しい自然環境、地質環境があり、社会資本を整備するに当たって非常に難易度の高い地域です。また、冬場の雪寒期もあり、冬季風浪という厳しい条件もあります。逆にそれをしっかり乗り越えることで信頼性の高い長寿命のインフラを提供していく努力も昔から重ねてきていますので、そういった役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。

地形条件、気象条件が厳しい北陸で事業をするには、同じような道路を造るにしても、同じような防災工事を進めるにしても、その条件を克服するための事業費が必要になる場合も少なくありません。国土強靱化のための予算が手当され、北陸地整の直轄事業では事業費が約2割増えている状況です。防災・減災、ミッシングリンクの解消やダブルネットワークなど、国土強靱化のための予算を先取りして、それ以外の地域の経済を下支えする社会資本整備も着実に進められる好循環になってきていると思います。地域の首長の皆様からも、また多くの地域の方々からも具体的な事業の進展に評価をいただくとともに期待も高まっていますので、ぜひ、今進めている直轄事業をこのペースで進めるよう、しっかり取り組んでいきたいと思います。

②2022年度補正予算、2023年度予算について

（日本建設業連合会北陸支部長）

来年度の公共事業関連費としては、引き続き、防災・減災、国土強靭化加速化対策の事業継続を含む予算規模となり、国土交通省関連の今年度補正と来年度予算と合わせて、約6.8兆円規模の政府予算が12月23日に閣議決定されたところです。

「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」が着実に進められているところですが、2022年も8月の局地的豪雨や年末の大雪など、自然災害は激甚化、頻発化しています。また、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢による資源価格の高騰に見舞われた日本経済を支える屋台骨として、盤石なインフラが不可欠であると思っており、今後も安定的に予算措置されることが望まれています。

北陸地域における防災・減災対策をはじめ、主要なプロジェクトである大河津分水路の改修事業やミッシングリンク解消に向けた日沿道建設事業、利賀ダム建設事業などの今後の予定などについてお聞かせ下さい。

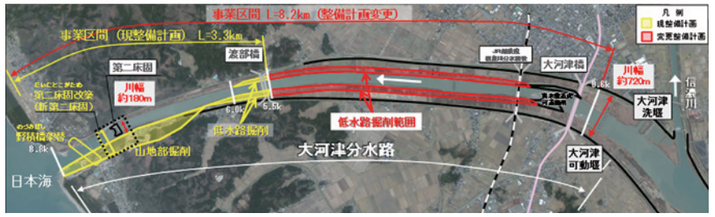
（北陸地方整備局長）

大河津分水路の事業については、平成27年に事業着手し今年で9年目を迎えるところです。左岸側の山地部掘削、野積橋の架替工事を進めるとともに、その骨格となる第二床固改修工事については、前半の鋼殻ケーソン9基のうち3基は既に設置済みですが、残りの6基は分水路下流泊地に搬入済となっており、これを設置して前半の工事を終える重要な段階を迎えています。出水期や冬季風浪を避け、施工期間、施工条件が厳しい中で確実に事業を進めているところです。

こういった大規模な事業を進めるに当たってはBIM／CIM活用モデル事業として進めることは非常に重要なことであり、事業を着実に進めると同時に新しい技術の導入を一般化していく取組みにしっかりチャレンジして、外部への発信にも努めていきたいと思っています。

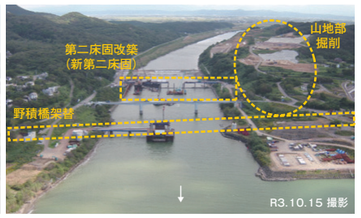
利賀ダム建設事業については、令和5年度の本体着手に向けて工事用道路の促進、仮排水トンネルの施工を進めていますが、ダム右岸側に地すべり地帯を抱える厳しい地形条件があり、それにも対

大河津分水路改修事業



事業概要

左岸山地部掘削



河口部全景

国道7号 朝日温海道路

並行する国道7号【冬の越波】

掘削を開始したトンネル状況【（仮称）4号トンネル】

利賀ダム建設事業（庄川水系利賀川）

【令和4年度の事業内容】転流工工事、工事用道路工事等を実施

応しながら着実に本体工事を進める重要な局面に差し掛かるところです。

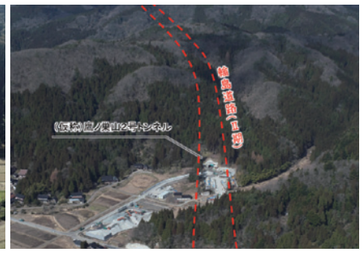
道路事業では、日本海沿岸東北自動車道の朝日温海道路の全長40.8キロのうち、現在、新潟側で五つのトンネル工事と橋梁工事を進めています。最終的には、新潟側の16本のトンネル工事を行い、県境を越えて日本海沿岸をつなぐ非常に重要な道路となります。北陸を代表するような地形の厳しさ、地質の厳しさを持っている道路ですが、施工業者の皆様の高い技術を導入して着実に進め、難工事ではありますができる限りコストを縮減していくということにも配慮しながらしっかり工事を進めていきたいと思っています。

石川県では能越自動車道の輪島に至る輪島道路が、令和5年にのと里山空港ICからのと三井IC間4.7キロが開通できる見通しが立ちつつあります。石川県の中心部から能登半島の先端につながる重要な路線の前半部分ですので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

金沢東部環状道路は北陸道から環状道路につながる残り部分1.8キロの4車線化が同じく令和5年内に完成する見通しです。北陸道から金沢市街地の東側、山側部分に4車線でアクセス可能となり、開通に対する期待も高く、しっかり進めていきたいと思いますし、その先の4車線化についても着実に進めていきたいと思っています。これらの事業を補正予算、当初予算をうまく活用して、しっかり進めていきたいと考えています。

国道470号 輪島道路・輪島道路（Ⅱ期）

令和5年内に開通を予定する輪島道路



工事推進中の輪島道路（Ⅱ期）

③北陸の活力ある地域づくりについて（建設分野のDXの普及・推進）

（日本建設業連合会北陸支部長）

北陸地方整備局様では、令和3年8月に「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」が策定されました。6つの基本

国道159号 金沢東部環状道路

令和5年内開通予定区間

戦略を設定し北陸の活力ある地域づくりが進められるものと承知しています。また、インフラ分野においてもデータとデジタルを活用したDXの取組にご尽力をいただいているところです。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、現場においても監督・検査の遠隔化など、非接触・リモート型の働き方への転換の取り組みを進めていただいているものと承知しているところです。こうした状況を踏まえて、今後も働き方改革、生産性向上を図り、建設業界の維持・発展につなげていくことが重要と思っております。今後のウィズコロナを見据えて、現場における生産性向上に向けた新たな取り組みなどについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

新型コロナウイルス感染症の対応については3年が経過しましたが、この間、感染拡大防止と社会経済活動の両立という、ウィズコロナで感染拡大防止を講じながら事業を継続いただいている建設関連業の皆様に改めて感謝申し上げます。この間、感染防止のためリモートワークや遠隔による会議などいろいろなものを活用してきました。これまでも取り組んできたICT施工やBIM／CIMを活用した工事を統合し、さらに行政と受注者の間でやり取りする文書も含めてデジタルを活用する新たなDX（デジタル・トランスフォーメーション）の建設分野での全体像になると思っています。令和5年は建設分野のDXについて躍進の年とすべく取り組み、コロナ禍が去った後も定着させて効率的な働き方、生産性向上につなげていきたいと思っています。令和3年度は240件の遠隔臨場試行工事に取り組み、令和4年度から通信環境が整っている現場では全て実施しています。現場をしっかり確認することも必要ですが、受発注者双方の利便性向上や時間の選択がし易いことから、遠隔臨場を組み合わせることでお互いに効率的な仕事ができるきっかけにもなっており、引き続き活用していくことが重要だと思っています。

ICTの施工については簡易型ICT活用工事として始めたことによって、ほぼ全ての土木工事に拡大し、ICTの活用の普及・拡大を図っているところです。特に令和5年度からはICTという形だけではなく、3次元のデータを設計の段階から施工の現場まで引き継いで活用し、最後は完成図書として管理にも引き継いでいくという本格的なBIM／CIM活用がDXの大きな柱になると思います。その取組みは令和5年度に原則適用ということになりますが、まず、発注者からのデータ引継ぎを徹底し、契約後速やかに受注者に設計図書の元となった情報を説明して施工管理に活用していただきます。さらに高度な活用をいただく場合は、施工管理の状況報告のための資料、書類にも活用いただくことが求められると思います。受発注者双方で相談したうえで取組みを進め、そのための講習会の実施やサポートする施設も活用できればよいと考えているところです。

④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革について（週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進）

（日本建設業連合会北陸支部長）

私どもの建設業界におきましても、政府による積極的な施策のもと、建設事業の着実な遂行に加え、「働き方改革」と「生産性向上」を強力に推進し、担い手の世代交代に確固たる道筋をつける必要に迫られている状況にあります。このため、日建連では、「建設キャリアアップシステムの普及・推進」と「週休二日の実現」に業界の命運をかけて取り組んでいるところです。建設キャリアアップシステムにつきましては、建設技能者の保有資格、保険の加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積することにより、技能者が能力や経験に応じた処遇を受けられる環境を整備することで、将来にわたって建設業の担い手を確保することを目的としております。整備局様におかれては、令和4年度は原則として支出負担行為担当官が発注されるすべての一般土木工事においてモデル工事を実施していただく他、分任支出負担行為担当官が発注される工事においてもモデル工事を実施いただくこととなっておりますが、建設技能者の処遇改善にもつながるこのシステムの普及・推進に、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

また、週休二日につきましては、日建連会員企業の昨年度通期における閉所率は、土木で4週8閉所以上が約50%、建築で約28%という状況ですが、2023年度末までに4週8閉所を達成すべく取り組んでいます。整備局様におかれましては、2021年度に公告・完成された工事の4週8休の達成率を93%としていただき、今年度からは土日の現場閉所を月2回から3回とする取り組みを行っていただいているところであり、民間発注工事への普及・促進においても加速させることができるものと考えています。この点について、今後の具体的な取り組みがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

直轄の国発注工事では、令和5年度を待たずに4年度から全工事を発注者指定型として4週8休の実現に取り組んできました。さらに、土日を閉所とした質の高い週休二日を早期に実現したいと思っています。また、毎月3回の土日の閉所について県や市町村とも連携して着実な実施に取り組んでいるところです。4週8休については93パーセントまで取り組んできましたが、残り7パーセントについても確実に進めることが必要だと思っています。

北陸の特徴である急峻な地形や脆弱な地質を有することから、現場条件が厳しい、更には積雪寒冷地では冬期の作業条件が厳しく、工期に余裕がないとの話も聞いていますが、受発注者で現場条件を共有し、条件が厳しい工事については、現場条件毎に調整させていただき、適切な工期設定に取り組んでいく必要があると思っています。また、それと同時に週休二日にふさわしい賃金が手当されることが重要であり、労務単価の上昇のみならず、様々な手を打っていく必要があると思っています。全国共通の取組みについては、本省や他の整備局とも情報を共有して、新しい働き方に対してふさわしい賃金が払えるような取組みにつながっていけばよいと思っています。

建設キャリアップシステムについては、WTO対象の本官発注工事において原則全ての工事を義務化モデル工事として取り組んでいただいています。日建連はその先導役を果たされていますが、そこからさらに地域の様々な関係企業に参加いただき、習熟いただけるように取組みを展開していきたいと考えています。

一方、技能者レベルの評価や労務費調査との連携、技術者レベルを反映した手当の支給の普及など、その能力や業績の取扱についてメリット・デメリットを示すことにより、少しずつ理解が広まったり、取扱に慣れることでより効果的な使い方も出てくると思います。また、建設キャリアアップシステム本来の役割と同時に、よりDXの時代にふさわしい活用も出てくると思いますので、しっかりフォローしながら進めていきたいと思います。日建連構成企業の皆様が先導役になられるということは、非常に重要な役割だと思っていますのでよろしくお願します。

（日本建設業連合会北陸支部長）

CCUSの技能者登録も当面の目標であった100万人を超え、登録者が増えてきている状況であり、このデータをどのように活用していくかが重要となると思っています。日建連会員会社では、朝礼の場なども利用し、登録とともに入場時の確実なカードタッチを呼び掛けており、着実に率も向上してきています。

（北陸地方整備局長）

例えば、車のETCや交通機関系のICカードもほとんどの方に普及したことにより、効率化できていると思いますので、そういった領域に近づけていくことが重要だと思います。例えば、将来的にはスマホの

アプリやICチップが利用されることも考えられることから、普及と同時に、DXにふさわしいアップデートも有効なのではないか思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

日進月歩で技術が進み、会員企業でもカードタッチから顔認証に変えるよう進めているところもあります。また、安全管理システムとも連携できるような展開になれば、さらに効果の高いツールとすることができると思っていますし、建設技能者の賃金上昇につながるものと期待しています。

⑤建設界の広報活動について

（日本建設業連合会北陸支部長）

日建連の北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために、社会資本整備の意義や重要性について、一層の理解を得るため、積極的な情報発信に努めているところです。昨年度は「社会資本整備の重要性に関するシンポジウム」を北陸地方整備局様のご後援をいただき、新潟県商工会議所連合会と共催しました。また、土木学会新潟会と共催の「親子工事見学会」、新潟地区、石川・富山地区における大学・高専の学生を対象とした「市民現場見学会」を毎年、実施しているところです。近年はコロナ禍にあり、「親子工事見学会」の現場見学の開催は見送っているところですが「市民現場見学会」では現場と学校をリモートでつないだ現場見学会を実施しているところです。国土の保全や地域づくりを担う社会資本整備と魅力ある建設産業への理解促進の観点から、広報に関しての北陸地方整備局様での具体的な取組み、又はご提案などがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

新型コロナウイルス感染症の経験の中で遠隔臨場など、ウェブを最大限活用して取り組んできていますが、我々が担っているインフラ整備、その管理の現場を間近に見てもらうことで新たな発見もあると思っています。住民の視点でいえば、地域の安全・安心や経済発展にそのインフラがどの様な効果を発揮しているのかということが結びつかなければいけないですし、担い手確保という視点では、重要なインフラに携わって、担い手となることの意義や重要性を理解していただき、実感を持っていただくことが重要だと思います。

また、インフラツーリズムの視点では、土木資産の価値に着目し、朝日温海道路や福島県との厳しい県境をつなぐ国道289号（八十里越）、これから本体工事が動き出す利賀ダム建設事業、大河津分水路改修事業など、高度な技術力を活用した大型プロジェクトが現場で動いている状況を見ていただきたいと思います。より多くの方々に機会が広がる遠隔での現場見学を活用することも必要ですが、やはり実際の現場に行って見てもらうことが大事であり、担い手となる若い人たち、若しくは指導を行っている学校の先生方やご家族にも実際の現場を見てもらうことで、将来のためにどのような役割を担っていくのかを実感していただく現場が北陸でも各所にあり、こういったものを活用していくことは重要だと思っています。

担い手となる人向けに最近では、DXやドローンを使った現場確認、3Dで進捗状況を管理している状況などを見ていただくことで、土木の施工現場を動かすということだけではなく、施工管理や効率化、精度を高めるために取り組んでいることが非常に身近に感じられると思います。少し前はICT建機による施工現場を見ていただいたこともありましたが、今はもっと統合されたDXにふさわしい現場が各所で稼働していますので、それを活用していきたいと思っています。DXの支援の取組みでは、北陸技術事務所内にDX人材育成センターを新設し、初めてDXに取り組む企業の方々にも研修していただく施設とするとともに、担い手となる若い方々にも最新の土木施工の現場での活用状況を見ていただきたいと思います。遠隔でできるもの、若しくは現場の動く様子を遠隔で管理できるものなどを見ていただくことによって、新しい土木の姿を見せられると思います。実感する、ライブで見るというところもウィズコロナで定着していくと思いますので、北陸地整においても実践に移していきますし、またご協力いただきたいと思います。

（日本建設業連合会北陸支部長）

日建連北陸支部でも実際の現場を見ていただきたいと考えていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況もあり、リモートでの開催としたところです。ウィズコロナが浸透してきているということもあり、実際に現場に行って皆さんに見ていただくことで伝わるものが大きいと思っています。現場ではDXを進めていますし、ICT化も進んでいますので、そういったことを学生さんなどに見ていただければ、建設業への感じ方や考え方も変わってくるのではないかと思いますので、今後は実際の現場をみていただくよう進めていきたいと思っています。また、日建連の会員企業で取り組んでいるDX事例集なども活用していきたいと思っています。

⑥日本建設業連合会等への要望について

（日本建設業連合会北陸支部長）

我々の業界は、社会を支える基幹産業であると自負しております。特に、北陸地域では期待される度合が他の地域よりも高く、重要な産業であると認識しています。北陸の活力ある地域づくりという観点から、日本建設業連合会または建設業界に対して、ご意見、ご指摘、またはこうするべきではないかというお話がございましたら是非、お聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

i－Constraction推進に当たってはBIM／CIMの活用など、いろいろな形でICT活用の先進的な取組みをいただいてきたところですが、DXではそのプロセス全体を効率化していくことが必要になりますので、これまで取り組んできたものを引き継げる状態にしていくことが重要になると思います。DX若しくはi－ConstractionやBIM／CIMの取り組み方については、個社で進めるうえでそれぞれのオリジナリティや先進性を活かして取り組み、次の工事につなげる、若しくはどこのコンサルタントの設計成果であっても、現場を受け持つ企業がそれを活用できるよう、共有化や汎用化されることが重要になっていくと思います。先進的な部分に取り組むことが重要であり、日建連構成企業の皆様は非常に重要な役割があると思っています。技術の発展や高度化に取り組んでいるところですが、統合された時により質の高いものとするため、汎用性を高めると同時により次の世代にふさわしい技術に進展させていくという組み合わせは、大手企業ならではの取組みであり、日建連全体の役割かと思っています。皆さんの取組みがあって地方の企業にも採用され、やがて地元の企業でも汎用化していくということになると思っています。DXは息の長い取組みであり、少し先のロードマップと同時に、次は何を実現していくのか、これまで実現したことを次にどう活かしていくのかという両方を見ていただき、試行錯誤が必要な部分もあるかと思いますが、積極的に業界全体のリーダー役になっていただいてDXにふさわしい取組みを進めていただきたいと思ってます。

（日本建設業連合会北陸支部長）

DX人材センターを設置されるとのお話もありましたが、データの活用など今後の取り組み方針についてお聞かせください。

（北陸地方整備局長）

現場のプロセスについては成果も出てきていますし、この先どう取り組んでいくのかが見えてきています。全体で扱ったデータを紙ではなく、電子データでやり取りしなければインハウスの効率化につながっていかないと思います。国の事業においては、提出書類に手間がかかっているということはお聞きしており、書類を減らしてきたと思いますが、紙ベースのものを電子的に置き換えるだけでなく、今後は設計図書を施工にも活かしていただき、完成図書として出来上がったデータを発注者が引き継ぐということが重要になると考えています。DXのサーバーの中でデータを紐付けし、そのデータの中身の確認ができるところまでできればよいと思っています。現在国総研でトライアルしていますが、一つのサーバーにアクセスし、それぞれ発注者用、受注者用のセキュリティを介して同じデータを扱うということが最終形になると思っています。ロードマップ全体の話であり、実現にはまだまだ課題は多いと思いますが、まずは受発注者で使い勝手、スピード感、占有する容量などの実態を感じ取ることが必要だと思っており、DX人材育成センターがその起点になると思います。データセンターのデータを活用すること、つなぐことを北陸地整においても試行を始めていければと思っています。

DX人材育成センターは膨大なデータを扱うというよりも、入口の部分を試す人材育成システムから始めて、いずれは高度な研修にも耐えられるようにしていきたいと思います。そこで双方が電子的なデータを使うことを企業の投資なしで経験してもらえれば、非常に意味があるのではないかと思っており、我々は裾野を広げるための普及にしっかり取り組んでいきたいと思っています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

データセンターを介してデータを活用していくことができれば、受注者のみならず発注機関の皆さんにとっても非常に効率化が図られるツールになっていくのだと感じていますが、今後、地方自治体をはじめとした他の発注機関との連携の動きの予定についてお聞かせください。

（北陸地方整備局長）

概念としては国に限らず県や市町村、その他公共的な発注機関のいずれであっても活用できるものになると思います。現在は試行段階であり、国総研がデータを保有し、それを使っていただくことになります。今後は費用負担もあることから、どのような主体がそれを保有していくのか、若しくは共通的に国でインフラを整備するのかなどについて、運用の頻度や必要となる容量も検討しながら整理をしていくことになると思います。場合によっては民による運営ということもあるかもしれませんが、セキュリティとの兼ね合わせも含め、皆さんとも情報交換をしながら進められていくと思っています。

⑦災害対応について

（日本建設業連合会北陸支部長）

近年では、令和元年の台風19号による豪雨により、信濃川水系千曲川の堤防決壊など甚大な被害をもたらしました。また、令和4年8月の局地的な豪雨により、新潟県、石川県でも甚大な被害が発生したところです。近年多発しているこうした局地的・集中的・激甚的な豪雨災害に備えていかなければなりませんが、大規模な災害に対応するための事前防災についてのお考えや新たな取り組みについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

令和元年の東日本台風で千曲川の本川が長野市の市街地で決壊するという非常に大きな氾濫がありました。その上流の県の管理区間でもそれに匹敵するような大きな浸水被害が発生したところです。その直後から日建連、長野県・新潟県・富山県・石川県の建設業協会、建設コンサルタント協会北陸支部、測量協会北陸支部等の皆様にもご協力いただきました。日建連の企業の皆様には本堤での24時間体制での緊急復旧に携わっていただき、さらにその後の直轄代行の災害復旧でもご支援いただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今なお、本堤の堤防強化を進めていますし、今後、洪水量を調節するための遊水池の事業を進めていく必要があります。今年度は、新潟県の荒川や石川県の梯川をはじめとする河川で大きな被害が発生しましたが、日本全国でも時間100ミリを超える雨を経験するようなことが起こり得ます。最近の気候変動の影響で流域全体に降る雨の量が増え、河川に流れ込む水量が多くなっており、従来通りの河川整備だけでは対策ができない状況となっていますので、遊水池やダムを有効活用することも含めて、ハード、ソフトの両面を合わせた流域治水に取り組んでいく必要があります。あらゆる洪水による氾濫を防ぐことは無理ですが、浸水を最小限の範囲にとどめる対策を全国の河川に展開していくため、流域の市町村の役割が重要になります。この年末に新潟県の荒川、石川県の梯川では緊急治水対策プロジェクトとして当面取り組む緊急の取組みを決定したところです。これまで続けてきた河川改修もしっかり続け、流域治水の取組みも組み合わせながら、さらに市

町村が主体となる浸水エリアを小さくするための排水施設なども組み合わせ、河川管理の主体である国や県だけではなく、地元市町村と一緒になって取り組んでいく施策としたところです。

道路がつながっていることで被災地に緊急的に行くことができるよう、ダブルネットワークを進め、さらに北陸のような冬期の除雪が必要になる地域では、主要部分は4車線を確保していくことが必要となります。関越自動車道や北陸自動車道は早い時期に4車化がなされていますが、国道についてはまだまだバイパス事業や4車線化の事業も残っています。また、高速道路においても磐越自動車道や東海北陸自動車道で対面2車の区間もありますので、強靱化という名にふさわしい4車線のダブルネットワークにしていく取組みも合わせて進めていく必要があると思います。一方で、冬の集中した降雪の際は、一時的に通行止めをして集中除雪をするという状況も生じますので、できるだけ交通量を減らす、道路の負荷を減らすため、不要不急の場合には外出を控えていただきたいと思います。流域治水と同じように、冬期の道路の利用や除雪体制においても地域と連携し、ハードとソフトを組み合わせた取組みをやっていくことが新しい課題だと思います。

気候変動による大雨や大雪の適応策と同時に重要になってくるのは、温暖化の緩和策としてカーボンニュートラルに取り組んでいくということです。洋上風力や水力発電の建設分野がカーボンニュートラルのエネルギーを生むと同時に、建設分野の工事の中でもカーボンニュートラルに貢献していくことが必要です。気候変動により災害が発生した後の対処のみならず、その原因たる温暖化への対応を含めた幅広い防災対策、気候変動対策が非常に重要だと考えています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

昨年末の大雪では国道で滞留車両が発生したところです。国道などを4車線化するには時間もかかりますが、4車線化を進めることによって対応も変っていくことになると思っています。

（北陸地方整備局長）

今回の12月18日からの大雪は、柏崎市の市街地や長岡市の中心市街地から小千谷に向かう都市部に近いところでの里雪であったということが大きな影響を与えています。山際の山間部での除雪体制については、一番厳しい北陸の雪にも対応する体制を整えていますが、平地部では混入してくる車両が多く、今回は高速道路も通行止めとなったことから大型車両も流入し、道路に非常に負荷がかかった状態でした。予め予測できる場合は、例えばその後の12月22日からの大雪の際は気象庁と国土交通省共同の事前発表をさせていただいて出控えを促せましたが、そうならない場合に臨機に対応するには、除雪帯が確保されているバイパス規格の道路や4車線で除雪をしながらも車線の確保ができるような道路であれば積雪寒冷地における強靱化につながると思っています。そのためこれまで予定してきたバイパスを一刻も早く完成させることが重要であり、11月に柏崎バイパス、12月に49号水原バイパスを部分開通させ、雪寒期前に供用しました。こういった事業を着実に進めていくことが必要だと思っています。

TEC-FORCE｜緊急災害対策派遣隊

● 主な活動内容

1. 地域のニーズを把握 → 自治体への**リエゾン派遣**。
2. 被災状況の迅速な調査 → **防災ヘリによる広域調査**や**ドローンを併用した河川・道路施設の調査**。
3. 災害対策機械等による支援 → **排水ポンプ車**による緊急排水や**衛星通信車等**を活用した現場状況の把握・監視。
4. 所管研究所等による高度な技術力による支援 → **復旧工法の選定、復旧手順等**のアドバイス。

1｜地域のニーズを把握

自治体へのリエゾン派遣

・被災自治体の被害状況や支援ニーズを把握し、地方整備局等への報告・調整を実施
・災害対策機械など支援メニューの紹介
・河川・道路等の復旧方針などへの助言

2｜被災状況の迅速な調査

災害対策用ヘリコプターによる広域調査

・災害対策用ヘリコプター（全国8機）により、上空から広域に調査
・衛星回線でリアルタイムに被災状況を把握

被災状況の把握

・現地踏査し河川・道路等の被災状況調査を実施
・ドローンなども活用し迅速に調査

3｜災害対策機械等による支援

排水ポンプ車による緊急排水

・洪水や津波等による大規模な浸水に対し、全国の排水ポンプ車を集結させ、迅速に排水作業を実施

現場状況の把握・監視

・衛星通信車や、小型画像伝送装置等を活用し、被災状況の映像配信や、電話回線が途絶した地域での通信回線の構築

4｜所管研究所等による高度な技術力による支援

自治体への技術指導

・危険度合いや、応急対策工法選定などを、被災自治体に助言

高度技術指導チーム

・国土技術政策総合研究所、土木研究所などの専門家が現地調査を行い、工法選定、復旧手順のアドバイス等を実施

令和4年6月 石川県能登地方地震

本省との特定災害対策本部会議の様子

被災状況調査実施状況（橋梁調査）

被災状況調査実施状況（Car-SAT）
Car-SATから配信された現地画像調査

令和4年8月3日からの大雨

新潟地方気象台と北陸地方整備局の合同会見
（8/4 3:20）

市町村職員との連絡調整
（村上市）

護岸崩落状況調査
（関川村）

砂防堰堤での土石流の捕捉を確認
（8/4 関川村）

排水ポンプ車による排水作業
（小松市古府地区）

斜面土砂流出状況調査
（村上市）

⑧おわりに

（北陸地方整備局長）

働き方改革における週休2日の実現や生産性向上におけるDXについて話をしましたが、10年、20年後の姿を見据えて、そのために今何ができるのかを考えていくことが非常に重要になると思っています。社会環境の変化もあると思いますが、今想定できる10年、20年後の姿をイメージし、それを共有して次に進んでいくというのは非常に重要だと思っており、特にDXの実現は未知の領域もかなりあることから、将来的なことを一緒に考えていければよいと思っています。これまでも建設分野、社会資本整備の技術の発展をリードしていただいているのが日建連構成企業の皆様ですので、共同での取組み、日建連としての取組みを進めていただければありがたいと思っています。そういったことが担い手確保という業界全体の共通課題の解決にもつながっていくと思います。現時点においても、現場でしか味わえない事業の先進性や建設分野のDXを先導しているという姿を見せられるとありがたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

令和4年12月 大雪に対する乗員保護活動

TEC-FORCE活動（物資配布状況）

令和5年1月 大雪に対する乗員保護活動

通行止め後の待機車両の状況確認 国道18号（上越市）

学生を対象とした「リモート市民現場見学会」を開催

「担い手の確保･育成」活動の一環として、建設現場のやりがい･魅力の発信をするために、実際の作業環境を見て頂き、現場所長や若手職員との会話を通じて建設現場で働くイメージの形成をして頂けるように見学会を開催しました。
今年度も新型コロナ感染防止の観点からリモートでの現場見学会の開催しました。

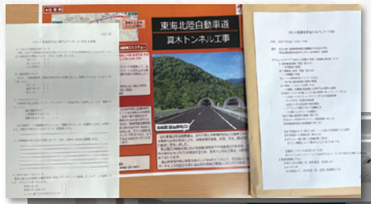
日　時｜2022年7月15日(金) 14:00～16:00

工事名｜東海北陸自動車道　真木トンネル工事

- 発　注　者：中日本高速道路株式会社 金沢支社
- 施　工　者：清水建設株式会社
- 場　　所：金沢大学　講義室
  真木トンネル作業所　会議室･現場
- 参　加　者：金沢大学理工研究域地球社会基盤系2年生31名、先生2名
- 使用ソフト：Microsoft Teams

当日の流れ

1. 工事概要説明
2. 工事状況の映像
   - ・坑口～切羽までのドローン映像
   - ・NATM工法説明
   - ・切羽変状
   - ・発破関連
3. 真木トンネル工事に関する質疑応答
4. 若手社員の1日…入社2年目社員による説明
5. 若手社員への質疑応答
3. ゼネコン一般に関する質疑回答



今回のリモート見学会は、厨川所長より現場の説明をして頂き、実際にトンネル現場内を体験してもらうために、ドローンを目線の高さで飛行させて撮影したトンネル内部の説明動画を見て頂きました。
また、若手職員の一日の仕事の様子をパワーポイントで紹介することで、実際に現場で働くということについて理解を深めて頂きました。
リモート見学会後のアンケートでは、「ゼネコンの仕事についての理解が深まった」や「実際の現場での見学会を開催してもらい、スケール感や臨場感を生で味わいたい」等の意見をいただきました。
最後に、見学会開催にご協力頂きました中日本高速道路株式会社様、ならびに清水建設の皆様に厚く御礼申し上げます。

開催日｜2022年10月4日(火) 13:00～14:30

工事名｜日本海沿岸東北自動車道　朝日温海道路11号トンネル工事

- 発　注　者：国土交通省　北陸地方整備局
- 施　工　者：大成･岩田地崎特定建設工事共同企業体
- 場　　所：新潟大学　講義室
  長岡技術科学大学　講義室
  長岡工業高等専門学校　講義室
  朝日温海道路11号トンネル作業所　会議室
- 参　加　者：新潟大学工学部社会基盤工学プログラム2年生4名、先生1名
  長岡技術科学大学工学部環境社会基盤工学課程2年生15名、先生1名
  長岡工業高等専門学校環境都市工学科3年生43名、先生1名
- 使用ソフト：Microsoft Teams

当日の流れ

1. 工事概要説明
2. 工事状況の説明
   - ・工事の特徴
   - ・工事施工状況
3. 若手社員より
   - ・若手社員の1日
   - ・ゼネコン志望動機
   - ・技術者として考えていること
4. 質疑応答

新潟大学側

長岡技科大側

長岡高専側

今回のリモート見学会では、工事概要や施工状況、山岳トンネルの施工方法、施工に用いる建設機械などをパワーポイントで紹介いたしました。
若手社員からは、「一日の働き方」「ゼネコン志望動機」「技術者として考えていること」などを説明し、ゼネコンで働くことについて理解を深めていただきました。
リモート見学会後のアンケートでは「パワーポイントによるアニメーションや言葉の説明で現場でなくても分かりやすい見学会だった」「すごくやりがいのある仕事だと感じました」「タイムラグなく見られたらもっと良かったです」等の意見をいただきました。
最後に、見学会開催にご協力いただきました北陸地方整備局様ならびに大成･岩田地崎特定建設工事共同企業体の皆様に厚く御礼申し上げます。

現場で輝く
けんせつ小町

けんせつ小町
KENSETSU-KOMACHI

「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

「未来の建設業界を築く皆さんを応援しています!」

東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社
新潟建築設備技術センター
小林　真季
Maki Kobayashi

JR東日本の建築部門で
ご活躍されている
小林真季さんをご紹介します。

Q. 建設業界を志したきっかけは?

A. 私が通っていた小学校は見晴らしの良い立地にあり、屋上からは住んでいる街を一望することが出来ました。私はそこからの景色が大好きで、建物が次々出来て景色が変わっていく様子をわくわくする気持ちで眺めていました。今思えば、祖母に建築の本を誕生日に買ってもらったり、建物を模写して絵を描いたりと、純粋に建物が好きだったのだと思います。

あの頃の『好き』という気持ちがそのまま将来の夢となり、現在の仕事に繋がっています。

Q. これまで経験してきた業務の中で心に残っていることは?

A. 大学の卒業設計の題材とした新潟駅付近連続立体交差事業に携わった事です。学生の頃も、就職して働いてからも、まさか自分自身が実際にその駅の建設に携わることが出来るとは、思ってもいませんでした。また私自身が学生時代に通った思い出のある旧駅舎の解体作業と新駅舎のホームの切り替え工事を進めるなかで、この新しい駅舎がまた地域の方々の思い出の場所になって欲しいと、自分自身の仕事に誇りを持つきっかけになりました。

主に現場で建築分野の工事監理を行っておりましたが、現場で施工会社・専門業者の方々から教わることも多く、大変な工事も多くの方々との関わりの中で協力しながら乗り越えることが出来ました。

Q. 仕事のやりがいを感じる時は?

A. 建設に携わった駅が、ご利用するお客さまの思い出の一部になっていくと実感する時です。

担当した工事の中で、小学生の子ども達の絵を待合所の窓ガラスにするワークショップを桑川駅で行いました。子ども達と共に、より多くの地域の方々が親しみを持ち、愛される地域の駅となるようにという思いを込めて仕事が出来た時に、私はやりがいを感じます。

私にとって新潟駅がそうだったように、駅がその地域の日常の風景となって、大切な思い出になることがあると思います。駅を建設するこの仕事は、誰かの思い出の一部を作っているのだという誇りを持って、これからも業務に取り組んでいきたいと思います。

今後も仕事をする上で大変な事もあると思いますが、あの子どもの時に眺めていた景色の一部に私の仕事が関わっていると思うと力が湧いてきます。

Q. 未来の女性技術者に対する思い・メッセージについて

A. 入社当時は職場に男性社員も多く、女性と男性の違いを意識して将来の不安も感じましたが、今は女性だからこそ「出来る」こと、私だからこそ「出来る」ことを大切にしています。私は入社7年目ですが、誰でも働きやすい職場や働き方に社会が徐々に変化していることを実感しています。自分自身が女性の先輩社員として、後輩の見本とまではいかなくても、これから建設業界を担う後輩達を応援出来る存在になりたいと思っています。

お客さま・地域の方々へメッセージ

新潟駅連立工事の上家工事立会

駅名標点灯時の新潟駅

駅名標・外壁の立会検査

桑川駅待合所のしゅん功時の様子

エッセイ ESSAY

『カメラとの出会い』

写真、映像作家
るなこさかい
Runa Kosakai

小さい頃から写真やカメラに触れる機会はあちこちにありました。

母のデジカメでこっそりいろんなものを撮って遊んだり、一眼レフをたくさん持っている祖父におねだりして貸してもらったりしていました。自分のカメラほしさに、ダンボールで偽物のカメラを作ったりもしました。

母方の祖父が写真館で働いていたこともあり、母はいつも「血は争えないね～」と言います。血筋なのかもしれません。

高校卒業後、写真の専門学校に行くことを理由に上京しました。

バイトをしながら学校に通うのは本当に本当に大変でしたが、そこで出会った人たちからは莫大なインスピレーションを受けました。

最初の目標はライブカメラマンになることでした。

ライブハウスにたくさん通って地道に人脈を広げていき、それが今の仕事に直結しています。

ツテもコネクションも無く、右も左も分からない中、自分からガツガツ行動していた当時の自分には拍手を送りたいです。

普段は音楽関係のお仕事がほとんどで、バンドやアーティストの宣材写真、ライブ写真、CDのジャケット、グッズのルックなどを撮影しています。

元々は写真だけだったのですが、ミュージックビデオに興味を持ち、映像も始めました。

奥が深すぎて嫌になることもしばしば、説明書は読まない、読めないタイプなので周りの人に助けてもらいながらなんとか続けてきました。

映像は色々な役割の人達と協力して作り上げるのでそれがとても楽しいです。

最近は近所に住む友達とよく深夜に散歩をします。

彼女もまたカメラを持っていて、ふざけながら写真を撮り合い、何時間も歩き続ける。

そういう時間も写真も大好きです。

自分が撮るものは、作品と言うよりは記録に近いもので普通なら忘れてしまうちょっとした瞬間も写真として残す事によってその時の匂いや温度までもが思い出される気がします。

どれだけブレてても、変な顔でも、ありのままの姿がとても愛おしいです。

見返したときに爆笑しちゃうような、鼻の奥がツンとするようなもの撮り続けていきたいです。

ゆうたいむす

「宮ちゃんと私」

錦鯉（きんり）店長

竹中　　淳　Atsushi Takenaka

私は、新潟駅前の東横イン3階で、錦鯉（きんり）という中華料理店のマスター兼料理人をしています。

前職は、ホテルで団体客とインバウンドの仕事をしていました。宮ちゃんと出会ったのは、通訳のアルバイト募集の時でした。

彼女は中国の大学より、横浜の日本語学校に編入して、新潟大学大学院で日本語について論文を書いた、日本が大好きな女性です。

その後、2年ほど一緒に仕事をしましたが、私は、ホテルを退職します。

しばらくして、この場所でスナックを営んでいたママが、お店を辞める事を知りました。

彼女が日本で飲食店をやりたいと、常々話しておりましたので、ちょうど良いタイミングでもあり、お店を引き継ぎ、中華料理店を始める事を決めたのでした。

中華料理は何でも食べているけど作った事がない彼女と、調理には全く無関係だった私の、試行錯誤が始まります。中国よりレシピも届きましたが、家庭料理レベルの私には、かなり難しいものでした。彼女は、ホテルで仕事を続ける必要もあり、オープンまで1年掛かりました。

そして今、1年半が過ぎました。いろいろな事がありましたが、多くのお客さんに励まされ助けられ、彼女の努力もあり、ここまでやって来れたと言う感じです。やっぱり人って優しいなと思います。

私は学生の頃、自転車で日本のあちこちを旅しました。たくさんの人に出会い、たくさんの優しさを貰いました。ユースホステルでヘルパーをして過ごし、さまざまな旅人にも出会いました。自分にとって、人と人との距離が無くなり、人を好きにさせてくれた、大切な時間でもありました。彼女と出会った事で、また、いろいろな人と出会える機会を貰った事がとても幸せです。

私にとって、たくさんの人と出会う事が、心の宝物でもあります。

思い出に元気と勇気を貰いながら、彼女の夢の為に、宮ちゃんの「きんり」は、今日も元気に営業中です。

「峠の向こうを目指して」

新潟県酒造組合事務局長

坂井　康一　Koichi Sakai

コロナ禍が世界に広まってから3年経過した。本県のキラーコンテンツである日本酒も少なからず影響を受けた。最近になって輸出を中心に幾分明るい兆しがみられるものの、資源エネルギー価格の高騰等もあり、今後の展開は予断を許さない。しかも、日本酒の需要は長期低落傾向が続いており、今は全盛期の2割（全国）～4割（新潟県）程度である。

それでも、新潟県の酒造業界は幾つか強みを持っている。まず、自然や水、米を活かした淡麗でプレミアムな酒づくりである。二つ目は、全国で唯一の清酒学校、醸造試験場、新潟大学日本酒学センターなどにより、技術の伝承、蔵人の育成、品質の保持・向上、日本酒文化の醸成が継続的に進められていることである。

三つ目は日本酒に関する情報発信で、特に「にいがた酒の陣」は2004年以降15回開催され、14万人もの人が訪れる一大観光イベントに育った。これに併せて行われていた新潟清酒達人検定試験も、既に約4500人もの認定証保持者が誕生している。

もちろん、これらも例外なくコロナ禍の影響を受け、酒の陣は3年連続で中止せざるを得なかった。しかし、復活を期待する声が数多く寄せられたため、10月に「酒の陣NEXT」と銘打ち、規模を縮小して開催した。チケットは事前購入制で3500円と高めに設定したが、瞬く間に3000枚が完売となった。当日は、ワクチン接種証明の提示を求めるとともに、おちょこに代わりプラカップを用意した。会場内も仕切りを設け、1クール3時間・750人という時間制限・上限人数も導入した。これらの制約により、収入は従前より大幅減となる一方、余計な手間や費用負担も強いられたが、来場者の反応はゆったりできるなど概ね好評であった。この酒の陣NEXTで試みた新しいスタイルも適宜織り込みながら、来たる3月には、朱鷺メッセで本来の酒の陣を4年ぶりに開催することになった。

今後、人流の増加やインバウンドの復活と相俟って、酒の陣や達人検定は日本酒需要拡大の大きなトリガーにもなると期待されている。併せて、県内酒蔵は峠の向こうの明るい未来を信じながら、酒の消費喚起のための様々な「仕込み」にも精力的に取り組んでいる。

「食べてみませんか?」

居酒Barナツヲ
料理人

南場　芳克　Yoshikatsu Nanba

私がいつも店で作っている「特製餃子」をご紹介します。

私は元々、イタリアンで修行したのですが、この餃子は、トマトソースやチーズが入った代わり種ではありません。具材はオーソドックスに、豚挽肉、キャベツ、タマネギ、ニラ、ニンニク、生姜で、味付けに塩、醤油、酒、ごま油を入れた具だくさんの大粒です。ピザ生地を捏ねていた経験を活かし、皮も手作りしています。

ひと口頬張ると、もっちり食感と皮の焼き目のカリッと感。皮の中からはニラの香りがホワァ～とたち、ずっしりと詰まった具から旨味がジュワ～と広がります。

ひょっとしたら、どこかイタリアンを感じる何かが入っているかもしれませんが、それは企業秘密です。

餃子のふるさと中国では、旧正月やおめでたい席で餃子を食べるそうですが、一説によると、清朝の頃まで使われていたお金に形が似ているので、縁起が良いからだとも言われています。

私が作った餃子で、運気アップ、金運アップとなるかは解りませんが、なれば幸運ですので、是非食べてみませんか?

新潟駅を万代広場側に出てすぐにある「居酒Barナツヲ」でお待ちしています。

「新潟での人との出会いから」

Longlife GOLF Academy
代表兼インストラクター

木村　哲也　Tetsuya Kimura

はじめまして。ロングライフゴルフアカデミーの代表兼インストラクターの木村と申します。

ゴルフスクールとインドア練習場として利用出来る施設を、新潟駅から徒歩5分のビルに2021年9月にオープンしました。

始まりは転勤で来た店舗の閉店が決まり、東京へ戻る身でしたが6年もの間に携わった方々から「残って欲しい」と声を頂き、皆様に心を動かされ新潟で独立開店する決意を致しました。

しかし、コロナ禍も重なり当初計画が非常にずれ込み順風満帆とはほど遠い日々でした。その際、離れてしまった方々も当然おりましたが応援を続けてくれた方々、他にも様々な方々から多くの応援・協力を頂き、やっと開店の日を迎える事が出来ました。

そんな苦難の中で皆様から頂いた「願望」「期待」「信頼」などなど、私自身も皆様のように信頼と暖かい気持ちを持ち続けたいと想い決めたのが「ロングライフゴルフアカデミー」という名前です。ロングライフ=長い人生、ゴルフも生涯スポーツとも言われておりゴルフを通じ、これからも店舗内外で出会う人々へ末永く何かの助けに少しでもなれるようにと「こころざし」を名前にも込めました。

オープン時には予想外に多くの方から、ご来店頂き、叱咤激励で本当に待ち続けた方々や新規にご来店頂いた方々に感動しました。

最後に、当たり前ですがレッスンは1人ひとり想うゴルフの理想達成へ向けカウンセリングし最新機器と共に全力で楽しみながらサポート致します !!

これからも末永く宜しくお願い致します。

MY PRIVATE TIME 私のプライベートタイム

青木あすなろ建設株式会社
北陸支店長
浅賀　美夫
Yoshio Asaka

「我が家のメンテナンス係」

私は入社から約20年間、工事部に所属し北陸地方整備局の工事を中心に施工管理をしてまいりました。出身地は神奈川県で1984年に入社し、最初の赴任先は富山県の宇奈月ダム工事用道路の洞門工事でした。現場は自然豊かな場所で猿や鹿が出没し初めて見た時は驚きました。

新潟県に初めての赴任は1989年、国道116号新潟西バイパスで地盤改良とボックスカルバートの工事でした。その後は長野県白馬村の松川、小谷村の姫川での床固工、福島県会津本郷町で阿賀川の護岸災害復旧工事、石川県の国道8号小松バイパスでは床版、大型擁壁工事、富山県では国道8号魚津滑川バイパスで早月川のオープンケーソン下部工の工事などを施工しました。工事施工においては監督職員の方々のご指導をいただき、また協力業者の方々と一致協力し、竣工検査を迎え工事が完成した時の達成感は格別でした。そして2004年から北陸支店での営業職の配属となり11年勤務し、その後は当社のグループ会社での勤務を約6年経て、2022年4月より北陸支店に戻ってまいりました。

～DIYリフォームに挑戦～

富山県にある自宅の床が経年劣化により上に乗るとしなる箇所が出てきた為、フローリングのリフォームをDIYですることにしました。

ウエブではこのようなDIY動画が多数アップされており、それらを見ていると私でもできるような気になって、2022年のゴールデンウイークをメインに施工しました。丸鋸、電動ドリルドライバー、インパクトドライバーを購入、家にあったバール、ハンマーを駆使し、元々は床下に断熱材が入って無かった為、既存のフローリングを部屋の外周端部だけ残し撤去、劣化した根太を補強し、新たに断熱材を根太間の幅に合わせカッターで切断し設置、防湿シート、捨てコンパネ、その上からフローリング材を貼っていきました。

作業を家族で分担し、部屋ごとに家具などを移動させ順番に、1部屋は畳からフローリングへ、2部屋はフローリング材の貼り替え工事を行いました。いざ自分でやってみるとなかなかうまくいかないもので何とか要領がわかってきた頃に工事は完了しました。

また、屈んでする作業が多く、終わったあとは数日、膝、腰が痛くなり年齢を感じることとなりました。終わってみればそれなりにきれいになり、やったかいがありました。

その他に、玄関の下屋の防水塗装、車庫の樋取替、敷地内では防草モルタル打ちなど、今年は休日で帰宅したプライベートタイムはDIYによる自宅のメンテナンスに明け暮れていました。

今後も、自分で出来る範囲は、マイペースで趣味と実益を兼ねDIYメンテナンスをしていきたいと思います。

～終わりに～

建設業の土木部門の仕事に38年携わらせていただきいろいろな経験をしてきました。

これらの経験を基に、ものづくりの大きな達成感を得られる建設業の魅力を次世代の若手社員に少しでも伝えていければと思います。

最初の赴任場所　宇奈月ダム工事用道路の洞門の現況（現在:富山県道13号朝日宇奈月線）

事務局だより

2022年度下半期（9月～12月）の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力を頂き、以下の活動を展開してきました。

東日本高速道路㈱新潟支社との意見交換会

開催日／2022年9月29日（木）
会　場／白山会館
内　容／ホームページに掲載

学生を対象としたリモート市民現場見学会

開 催 日／2022年10月4日（火）
対象学生／新潟大学・長岡技科大・長岡高専
現 場 名／日本海沿岸東北自動車道　朝日温海道路11号トンネル工事
内　　容／本誌P11に掲載

中日本高速道路㈱金沢支社との意見交換会

開催日／2022年10月6日（木）　会場／白山会館　内容／ホームページに掲載

安全パトロールの実施

点検日／2022年9月28日、10月5日
内　容／安全環境対策委員会（安全分科会）で新潟県・富山県の4現場の安全パトロールを行いました。
※特に安全管理等への取り組みが他の模範となる事業所として、大成建設株式会社　富士化学工場株式会社新規製剤棟建設工事作業所を労働災害防止安全推進大会において表彰しました。

現場点検の実施

点検日／2022年10月14日、10月18日、10月20日、10月21日
内　容／事故防止対策委員会で本支部合同現場点検（火薬類消費・交通安全・公害防止建設副産物管理）及び支部現場点検（交通安全・公害防止建設副産物管理）を行いました。

「土木の日」記念講演会

開催日／2022年11月18日（金）
会　場／新潟日報メディアシップ　日報ホール
内　容／（公社）土木学会関東支部新潟会と共催し、150名の参加を頂きました。
講演Ⅰ　「大河津分水100年・関屋分水50年　そしてこれから」
国土交通省北陸地方整備局　河川部河川調査官　齋藤　充　氏
講演Ⅱ　「天達流の備え!　異常気象と気象災害対策」
気象予報士　天達　武史　氏

金子会長挨拶

齋藤河川調査官による講演

天達気象予報士による講演

労働災害防止安全推進大会

開催日／2022年11月29日（火）　会場／ホテルオークラ新潟
内　容／会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。
記念講話／「労働安全衛生行政の動向について」
新潟労働局　労働基準部　健康安全課長　市川　尚　氏
安全事例報告／「工事の様々な特徴を応じた安全管理活動について」
信濃川左岸流域農業水利事業1号幹線用水路1号トンネル建設工事
株式会社　熊谷組北陸支店　土木部　信濃川左岸シールド作業所長　遠藤　建史　氏
安全環境対策委員長表彰／富士化学工業株式会社新規製剤棟建設工事
大成建設株式会社北信越支店　富士化学工業株式会社新規製剤棟建設工事作業所

新潟市議会政策研究会との情報交換会

開催日／2022年11月30日（水）　会場／新潟市役所本館6階　委員会室
内　容／公共工事の予算確保・入札制度の検討・工事施工円滑化・働き方改革と建設技能者の処遇改善についての情報交換を行いました。

新潟労働局と安全環境対策委員会との意見交換会

開催日／2022年12月6日（火）
会　場／興和ビル10階　大会議室
内　容／ホームページに掲載

現場代理人等意見交換会

開催日／2022年12月14日（水）
会　場／白山会館　大明の間
内　容／ホームページに掲載

BACK STAGE 編集後記

2023.3　73

編集後記を執筆中の12月18日～20日にかけて、新潟県の平野部では記録的な大雪が降りました。新潟県内の国道8号線では積雪による交通障害が発生し、また一部地域では停電も発生し、市民生活に大きな影響を与えました。

積雪による立ち往生は過去には鉄道でも起きており、管理者や事業者は再発防止に努めていますが、昨今の「記録的」「局所的」な天候の変化の前では完全に防止する対策は難しいと思われます。

コロナ以降、我々の生活には「リモート」「オンライン」が定着してきています。除雪や停電の復旧など、悪天候の中でインフラの維持に努めている人達の作業がスムーズに行われ、従来の生活に早く戻れるよう「外出しない」で経済活動を行うことも考えていく必要があるのではないでしょうか。

（稲田克彦　記）

広報委員会スタッフ
委 員 長　東峰　裕之（五洋建設）
委　　員
岡﨑　豊彦（熊 谷 組）　久保　茂樹（安藤・間）
阿部　伸昭（植 木 組）　稲田　克彦（大 林 組）
濱　　一男（大 本 組）　垣内　俊彦（鹿島建設）
信清　孝樹（五洋建設）　久保田雄彦（清水建設）
小林　恵一（錢 高 組）　上田　　進（第一建設工業）
岩佐　一郎（大成建設）　八塩　昌平（東亜建設工業）
津川　圭一（フ ジ タ）　涌井　　卓（前田建設工業）
工藤　　悟（若築建設）
事務局長　三澤　正人（日本建設業連合会北陸支部）